

- 1 主題名 寛容・謙虚 内容項目2－(5)
- 2 資料名 「茂の悩み」 福田 鉄雄 著 正進社
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目2－(5)は、「それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ」ことをねらいとしている。そのためには、お互いに相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することの大切さを理解させることである。また人間として成長するには、自分とは違ったものの見方や考え方に触れることで自分を振り返ったり、相手に対して謙虚に学んだりすることが必要であると気付かせたい。

しかし、中学生の時期は、自分との違いを大きく受け止めて単一的なものの見方をしたり、排斥的な考えをもつ周囲に同調したりする傾向も見られる。互いの個性をよさとして認め合うことで、自分も他の生徒も共に成長過程であり、互いに学び合わなければならない必要不可欠な存在であることを強く認識させ、互いに寛容な心で謙虚に学び合える集団及び人間関係を築かせたいと考える。

(2) 生徒の実態 (在籍39人)

主題についての実態調査 (38人 (欠席1人) 10月2日調査)

あなたは、友達5人で遊びに行くことになりました。
 友達の1人が、「○○君はいつも自分勝手だから、今回は誘わないようにしよう」と言いました。確かに○○君はいつも勝手な行動が多いです。しかし、別の1人の友達は「みんな仲間だからみんなで行こうよ」と言ってきました。2人の意見を聞いたあなたはどう思いますか。(道徳的心情)

- ア 確かに○○は自分勝手だ。誘いたくないな。…………… 10人
- イ 確かに○○は自分勝手だが、誘わないのはかわいそうだ。…………… 11人
- ウ 確かに○○は自分勝手だが、それとこれとは別だ。遊びに誘った方がいい。…………… 10人
- エ 確かに○○は自分勝手だが、自分たちだって欠点はある。○○にもいいところはある。
 お互いに注意すればいい。遊びに誘いたい。…………… 8人

そして、あなたは実際にどうすると思いますか。(道徳的判断力)

- ア ○○は自分勝手だからつきあわない。…………… 5人
- イ 他の人の意見も聞いて多い方の意見に従う。…………… 15人
- ウ ○○のことを悪く言うのはいやだ。我慢してつき合う。…………… 9人
- エ お互いに注意し合ったり、○○のいいところをみんなに伝えたりして楽しく遊びに行く。…………… 9人

本学級の生徒の様子を見ると、仲のよい友達同士では互いを思いやり、協力した学校生活を送っている。しかし、他の生徒には寛容な態度がとれず欠点を厳しく指摘したり、自分と違う意見を受け入れなかったりすることが多い。主題についての実態調査からも、道徳的心情・判断力の両面で道徳的価値の自覚が十分に深まっていないことが分かる。自分さえよければという考えから、共に育っていこうという心情を育むため、お互いのよさや個性を認め合い、自分以外の考えから謙虚に学ぶことの大切さに気付かせたい。

(3) 資料について

バスケ部のキャプテンになった茂は、2年生5人で大会に向けて練習を頑張っていたが、動きの鈍い正夫に不満があった。副キャプテンの浩二から、正夫とプレイの上手な1年生のメンバー変更を相談されると得策だと考え、出場メンバーを交代するよう正夫に頼みに行く。しかし、正夫が他の2年生と公園で練習している姿を見て、茂は何も言えなくなってしまった。プレイの上手なメンバーで試合に勝ちたいと思う気持ちと、互いに励まし合いながら練習を重ねる他のメンバーへの思いに揺れる茂の心情を追いながら、互いの個性や立場を尊重し、寛容な心をもって人間関係を築くことの大切さについて迫りたいと考え、本資料を用いた。

4 他の教育活動との関連

特 活	道 徳	学校(学年)行事
4月 出会いを大切にしよう 5月 8組の掟 ～みんなが気持ちよく生活するために～	5月 たかが小骨というけれど 7月 ゴリラの真似をした彼女を好きになった	6月 校外学習 9月 体育祭 10月 校内音楽会

5 本時の学習

(1) ねらい

いろいろなものの方や考え方があることを理解し、個性や立場を尊重しようとする心情を育てる。

(2) 準備・資料

資料，ワークシート，場面絵，顔シート，だまし絵

(3) 展開

主な活動・発問と予想される生徒の反応	・教師の支援・評価口
<p>1 だまし絵を見て，見え方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○に見えるよ。 ・横にすると別な絵にも見える。 ・○○に見えるのは気付いたけれど，△△に見えるとは思わなかった。 ・すごい。△△に見えるよ。 ・どうやったら見えるの。 <p>2 資料「茂の悩み」の範読を聞いて考える。</p> <p>(1) 登場人物と資料の内容について確認する。</p> <p>(2) 茂の悩みについて考える。</p> <p>○ 茂はどんなことを悩んでいるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合に勝ちたいのに正夫が下手だから。 ・正夫と佑一郎を交換したいのに言えない。 ・浩二に言われたけど，正夫に言えない。 <p>○ 正夫に自分から降りてもらおうと思い，正夫の家に向かった茂は，どんなことを考えていただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合に勝つためには仕方ない。 ・正夫ならわかってくれるだろう。 ・試合なんだから仕方ないじゃないか。 <p>◎ シュートの練習をする正夫の姿を見て何も言わずに帰っていった茂は，どんなことを考えていただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正夫だって頑張っていたんだ。 ・正夫を応援するようなことを言って，僕は何もしなかったな。 ・稔は正夫を手伝っていてえらいな。自分もチームワークを大切にしたい。 <p>(3) 茂へのメッセージを考える。</p> <p>3 教師の説話を聞いて授業を振り返る。</p>	<p>・ だまし絵を掲示し，何に見取れるか話し合うことで，楽しい雰囲気醸しながら人によってもものの方や考え方が違うことに気付かせたい。</p> <p>・ 事前の意識調査で，主題についての道徳的価値の自覚に十分な深まりが見られない生徒を意図的指名し，だまし絵の感想を発表させたい。生徒同士で感想に共感していくことで，受容的な雰囲気を築き安心して授業に臨める環境をつくりたい。</p> <p>・ 資料を範読する。</p> <p>・ 生徒が茂の心情を臨場感をもって掴みやすいように，登場人物の顔シートと場面絵を使って，資料の全体的な流れを確認する。</p> <p>・ 茂の悩みを全体的に捉えさせる。正夫への思いや浩二の考えに賛成する気持ちを整理して板書する。</p> <p>・ 茂が正夫に試合メンバーから降りるように伝えるかどうか大切ではなく，バスケが上手でない正夫を仲間にして試合に臨む姿勢が大切なので，補助発問で茂の心情を細かに追っていく。</p> <p>・ 前の発問で，正夫に肯定的な感情を抱いていそうな生徒に，逆の行動をとっている茂の心情を考えさせることで，次の場面で悩んでしまった茂を自分のこととして考えさせたい。</p> <p>・ 補助発問「キャプテンとしての茂の立場で考えるとどうかな」や「浩二に頼まれなくても正夫に会いに行ったかな」で，茂の正夫に対する気持ちが試合への思いより低いことに気付かせる。</p> <p>・ はじめの発問で浩二に肯定的な感情を抱いていそうな生徒に，場面絵を使って努力していた正夫への気持ちを高めていく。</p> <p>・ 補助発問「正夫を抜いた試合で勝ったら嬉しいだろうか。」で，チームメイトとしての正夫の大切さに気付かせたい。しかし，ここで道徳的価値の自覚に深まりが感じられない場合は，稔にも触れ，どんな思いで正夫の練習につき合っていたのかを考えさせることで，主題に迫りたい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評 いろいろなものの方や考え方があることを理解し，個性や立場を尊重しようとする心情がもてたか。(観察・つぶやき・発表・ワークシート)</p> </div> <p>・ このあと茂がどのような行動をとったらいいかメッセージを書かせる。</p> <p>・ 共有したい内容については発表させて，一緒に共感させたい。</p> <p>・ 教師の体験談を話したい。</p>

1 主題名 生命の尊厳 内容項目3－(1) 生命尊重

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目3－(1)は、「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」ことをねらいとしている。そのためには、まず自分の生命の大切さを認識させ、そこから他の生命について考えさせることが大切である。また、誰かに支えられながら自分も生かされているということへの感謝の念を抱かせることで、自他の生命の尊厳を理解し、自分もまた社会の中で誰かを支えるために生きようとするができるようになる。

しかし、誰しもが生命の大切さについては理解しているものの、実生活の中で真剣に考える機会は少ない。特に中学生においては、身近な存在の死を経験したり、病気や怪我から自分の生命を思ったりすることは稀である。気持ちの弾みで安易に「死」を口にする生徒も多い。

本題材では、ケビン・カーター氏がスーダンで撮影した写真をもとに生命の尊厳とは何か改めて考えさせたい。世界の片隅で罪なき小さな生命が失われていく現状に目を背けず、人間としてこれからどのように生きていくことがいいのか考えるきっかけとしたいと願い、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態 (在籍37名)

学級の殆どの生徒が進学に向けて真剣に学習に取り組んでいる。友人関係や家族への思い、進路についてなど、生徒の悩みは尽きないが、1学期に比べて弱音や愚痴を言う生徒は減ってきている。それに対し、進路相談を兼ねた二者面談でも、悩みについてどう対処したらいいかを相談する生徒の方が増えてきた。

下の「生命に関する意識調査」でも、道徳的心情・判断力とも高い生徒が多い。しかし、「イ ととてもかわいそうだけど、この国の人たちも悪い。(心情)」や「イ 助けたい。でも何もできないから何もしない。(判断力)」といった、「生命は大切だけど、他人事はどうでもいい」という考えの生徒が学級の半数いる。

また、意識調査の紙面の端に「悠長に報道するぐらいなら、すべて解決すればいい」という記述をした生徒もいた。生命を大切にしたい思いはあっても、主体は自分ではなく、他に責任を求めてしまう傾向があると思われる。一人の人間にできることの限度はあるが、あきらめずに、社会の一員としてどうしたらいいかを追求できる人間になってほしいと考える。

生命に関する意識調査 (37人10月30日調査)

○ 貧しい国や内乱が起きている国では、子どもや弱者が飢えや貧困に苦しんでいます。それについて自分の気持ちに最も近いものを、次の中から選んで○を付けてください。

- ア とてもかわいそう。他の国はどうなのかな?…………… 15人
- イ とてもかわいそうだけど、この国の人たちも悪い。…………… 9人
- ウ かわいそうだけど、仕方ないと思う。…………… 9人
- エ 何も思わない、自分に関係ない。…………… 1人

○ 貧しい国や内乱が起きている国の困っている人たちを見て、「何かできる」としたらあなたは何をしてみたいですか。自分の気持ちに最も近いものを次の中から選んで○を付けてください。

- ア 助ける。募金に協力したり、現地のボランティアに参加してみる。・ 13人
- イ 助けたい。でもどうせ何もできないから何もしない。…………… 9人
- ウ 助けたいけど、自分達で何とかしなきゃ。だから何もしない。…… 9人
- エ 何もしない。自分に関係ないし。…………… 1人

(3) 資料について (写真;「ハゲワシと少女」ケビン・カーター 「報道か人命か」日本道徳研究大会資料より)

ケビン・カーター氏がスーダンで撮影した、飢えで死にかけている少女とその少女が死ぬのをじっと待っているハゲワシの写真から、世界で起きている生死の現状とかけがえのない生命の重さについて考えさせたい。氏はこの写真でピューリッサー賞を受賞したが、その後「報道か人命か」の論争が繰り広げられ、氏は自殺してしまう。他人事ではない現実の世界であることを認識させながら、生命の尊厳について迫りたいと考え、本資料を用いた。

3 本時の学習

(1) ねらい

生命の重さについて互いに話し合うことで、その尊厳に気付き、社会の一員として生命を大切にしていこうとする心情を育てる。

(2) 準備・資料

写真（「ハゲワシと少女」、カーター氏の写真）、資料、ワークシート

(3) 展開

主な活動と発問	予想される生徒の反応	支援の手だて
<p>1 「ハゲワシと少女」の写真を見て考える。 ○ 写真を見てあなたは何を感じますか。</p> <p>2 ケビン・カーター氏の思いについて考える。 ◎ カーター氏はどんな思いでこの写真を撮ったのだと思いますか。</p> <p>3 生命の大切さについて考える。 ○ この授業を通して、生命について考えたことをまとめてみよう。</p> <p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ やせている。生きてるのかな。 ・ かわいそう。親はいないの。 ・ 親かもしれない。 ・ ボランティアの人かも。 ・ 敵国の人かも。 ・ ライオンなどの猛獣。 ・ 死神 ・ 最低だと思う。 ・ 許せない。 ・ 怖い。 ・ すぐに助けたいと思った。 ・ シャッターチャンスだと思った。 ・ どうせ死ぬんだからいいや。 ・ ハゲワシを追い払う。 ・ 自分なら撮影しない。 ・ 写真はすごいかもしれないけど、人間として最低。 ・ この写真で有名になるのは許せない。 ・ 自分も危険を冒しているのだから当然の賞だ。 ・ 少女がかわいそうだから。 ・ 自分の無力さが悲しい。 ・ 撮影しなければならぬ自分が嫌だった。 ・ 生命の大切さを知らせたかったのだと思う。 	<p>支援の手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハゲワシの部分を隠して写真を提示することで、少女自身の外観のみを把握させる。 ・ 補助発問「少女を見つめているものは何でしょう。」で、さらに少女の危機的状況を印象づける。 ・ 弱り切った少女の様子から救いの手を差し伸べる姿を予想した生徒には、その理由も質問し、この後の話し合いのために「助けたい」という気持ちを明確に抱かせておく。 ・ 少女をさらに苦しめるような存在を予想した生徒には、本当にそうだったらどんな気持ちができるか考えさせることで、生命を軽く考えない雰囲気をつくり上げる。 ・ 少女を見つめるものがハゲワシだということを知らせ、その写真の本当の怖さをじっくりと考えさせたい。 ・ 写真家ケビン・カーター氏を紹介する。 ・ 補助発問「この写真を撮った後、カーター氏はどうしたと思いますか」で、助けたいという思いと撮影という行動の葛藤について考えさせる。また、自分達だったらどうしたかも考えさせることで、他人事と感じている生徒をなくしたい。 ・ この写真で、カーター氏がピューリッツァー賞を受賞したことを知らせ、写真が世界の人々にどのような影響を及ぼしたのか、考えるきっかけとする。 ・ 補助資料「報道か人命か」を読む。 ・ 補助発問「カーター氏はどうして泣いたのだと思いますか。」で、批判だけでなく、カーター氏の本当の思いについて再考させる。 ・ 受賞後のカーター氏の自殺から、社会の一員としての生命を考えることの大切さについて考えを深めさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評 生命の重さについて互いに話し合い、その尊厳に気付き、社会の一員として生命を大切にしていこうとする心情がもてたか。 (観察・対話・ワークシート)</p> </div>